

論理数学I (12回目)

創域理工学部 情報計算科学科

桂田 浩一

1

5/9/2023

2

前回の復習

- 最小積和標準形
- クワイン・マクラスキー法を用いた最小積和標準形の求め方

5/9/2023

3

今日の内容

- タイソン法を用いた最小積和標準形の求め方
 - 積和標準形から主項を求める
 - 主積和標準形にする必要がない

5/9/2023

4

共有項

 x と \bar{x}


- 共有項：積項 t_1 と t_2 において相補的な命題変数が一つだけ存在するとき、その命題変数を x として

$$t_1 = xt'_1$$

$$t_2 = \bar{x}t'_2$$

であるとき、積項 $t'_1t'_2$ を t_1 と t_2 の共有項といい、 $\text{cons}(t_1, t_2)$ と表す。

例) $\text{cons}(\bar{x}_1 \bar{x}_3 x_4, x_1 \bar{x}_3 x_4) = \bar{x}_3 x_4$

$$\text{cons}(\bar{x}_2 x_3, x_1 x_2 x_4) = x_1 x_3 x_4$$

$$\text{cons}(x_1 x_2, \bar{x}_1 \bar{x}_2) \text{ 存在しない}$$

$$\text{cons}(\bar{x}_2 x_3, x_1 \bar{x}_2 x_4) \text{ 存在しない}$$

5/9/2023

5

共有項の直観的意味

二つの隣接する積項から、それぞれに包含されない別の積項を導く

x_1x_2	x_3x_4	0 0	0 1	1 1	1 0
0 0					
0 1					
1 1					
1 0					

$$\begin{aligned}
 &\text{cons}(x_1x_2x_4, x_1\bar{x}_2x_3) \\
 &= x_1x_2x_4x_3 \vee x_1\bar{x}_2x_3x_4 \\
 &= x_1x_3x_4
 \end{aligned}$$

$x_1x_2x_4$
 $x_1\bar{x}_2x_3$

x_1x_2	x_3x_4	0 0	0 1	1 1	1 0
0 0					
0 1					
1 1					
1 0					

$$\begin{aligned}
 &\text{cons}(\bar{x}_1\bar{x}_3x_4, x_1\bar{x}_3x_4) \\
 &= \bar{x}_1\bar{x}_3x_4 \vee x_1\bar{x}_3x_4 \\
 &= \bar{x}_3x_4
 \end{aligned}$$

$\bar{x}_1\bar{x}_3x_4$
 $x_1\bar{x}_3x_4$

5/9/2023

6

共有項の直観的意味

x_1x_2	x_3x_4	0 0	0 1	1 1	1 0
0 0					
0 1					
1 1					
1 0					

 $\bar{x}_1\bar{x}_2$ x_1x_2

$$\begin{aligned}
 &\text{cons}(x_1x_2, \bar{x}_1\bar{x}_2) \\
 &\text{(隣接しない)} \\
 &\text{存在しない}
 \end{aligned}$$

x_1x_2	x_3x_4	0 0	0 1	1 1	1 0
0 0					
0 1					
1 1					
1 0					

 \bar{x}_2x_3 $x_1\bar{x}_2x_4$

$$\begin{aligned}
 &\text{cons}(\bar{x}_2x_3, x_1\bar{x}_2x_4) \\
 &\text{(重複している)} \\
 &\text{存在しない}
 \end{aligned}$$

5/9/2023

7

共有項の性質

- 定理3.4 : t_i と t_j を相補的な命題変数が一つだけ存在する積項とする. このとき

$$t_i \vee t_j = t_i \vee t_j \vee \text{cons}(t_i, t_j)$$

したがって t_i と t_j が関数 φ に包含されるとき

$$\varphi = \varphi \vee \text{cons}(t_i, t_j)$$

5/9/2023

8

タイソン法 (コンセンサス法)

～共有項を求めながら主項を求める方法～

1. 論理関数を積和標準形で表し, その積項の集合を Π とする.

$$\begin{aligned} \text{例) } \varphi = & x_1 \overline{x_2} \overline{x_3} \vee x_1 \overline{x_2} x_4 \vee \overline{x_1} \overline{x_2} x_4 \vee x_1 x_3 \overline{x_4} \\ & \vee x_2 \overline{x_3} x_4 \vee x_1 x_2 \overline{x_3} \overline{x_4} \end{aligned}$$

$$\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \overline{x_2} \overline{x_3}, x_1 \overline{x_2} x_4, \overline{x_1} \overline{x_2} x_4, x_1 x_3 \overline{x_4}, \\ x_2 \overline{x_3} x_4, x_1 x_2 \overline{x_3} \overline{x_4} \end{array} \right\}$$

5/9/2023

9

タイソン法（コンセンサス法）

～共有項を求めながら主項を求める方法～

2. Π に含まれる相補的な命題変数を $x_1 \cdots x_m$ とする.

$$\text{例) } \Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 \bar{x}_2 x_4, \bar{x}_1 \bar{x}_2 x_4, x_1 x_3 \bar{x}_4, \\ x_2 \bar{x}_3 x_4, x_1 x_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4 \end{array} \right\}$$

相補的な命題変数 : x_1, x_2, x_3, x_4

5/9/2023

10

タイソン法（コンセンサス法）

～共有項を求めながら主項を求める方法～

3. $k = 1 \cdots m$ の各ステップで以下の操作を行う.

- ① 全ての積項 $t_i, t_j \in \Pi$ について x_k に関する共有項 $\text{cons}(t_i, t_j)$ を求め, Π に加える.
- ② Π に含まれる積項のうち, その部分積項が Π 内に存在するならその積項を Π から除去する.

$$\text{例) } \Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 \bar{x}_2 x_4, \bar{x}_1 \bar{x}_2 x_4, x_1 x_3 \bar{x}_4, \\ x_2 \bar{x}_3 x_4, x_1 x_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4 \end{array} \right\}$$

$$x_1 \text{ について : } \text{cons}(x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, \bar{x}_1 \bar{x}_2 x_4) = \bar{x}_2 \bar{x}_3 x_4$$

$$\text{cons}(x_1 \bar{x}_2 x_4, \bar{x}_1 \bar{x}_2 x_4) = \bar{x}_2 x_4$$

$$\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, \dots, x_1 \bar{x}_2 x_4, \dots, \bar{x}_1 \bar{x}_2 x_4, \dots, x_1 x_3 \bar{x}_4, \\ x_2 \bar{x}_3 x_4, x_1 x_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \dots, \bar{x}_2 \bar{x}_3 x_4, \dots, \bar{x}_2 x_4 \end{array} \right\}$$

5/9/2023

11

タイソン法（コンセンサス法）

～共有項を求めながら主項を求める方法～

3. $k = 1 \dots m$ の各ステップで以下の操作を行う.

- ① 全ての積項 $t_i, t_j \in \Pi$ について x_k に関する共有項 $\text{cons}(t_i, t_j)$ を求め, Π に加える.
- ② Π に含まれる積項のうち, その部分積項が Π 内に存在するならその積項を Π から除去する.

例) $\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 x_3 \bar{x}_4, \\ x_2 \bar{x}_3 x_4, x_1 x_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \bar{x}_2 x_4 \end{array} \right\}$

x_2 について: $\text{cons}(x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_2 \bar{x}_3 x_4) = x_1 \bar{x}_3 x_4$
 $\text{cons}(x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 x_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4$
 $\text{cons}(x_2 \bar{x}_3 x_4, \bar{x}_2 x_4) = \bar{x}_3 x_4$

$$\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 x_3 \bar{x}_4, \dots, x_2 \bar{x}_3 x_4, x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \\ \bar{x}_2 x_4, \dots, x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4, x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \bar{x}_3 x_4 \end{array} \right\}$$

5/9/2023

12

タイソン法（コンセンサス法）

～共有項を求めながら主項を求める方法～

3. $k = 1 \dots m$ の各ステップで以下の操作を行う.

- ① 全ての積項 $t_i, t_j \in \Pi$ について x_k に関する共有項 $\text{cons}(t_i, t_j)$ を求め, Π に加える.
- ② Π に含まれる積項のうち, その部分積項が Π 内に存在するならその積項を Π から除去する.

例) $\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 x_3 \bar{x}_4, \\ \bar{x}_2 x_4, x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \bar{x}_3 x_4 \end{array} \right\}$

x_3 について: $\text{cons}(x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, x_1 x_3 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_4$
 $\text{cons}(x_1 x_3 \bar{x}_4, x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_4$

$$\Pi = \left\{ \begin{array}{l} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, \dots, x_1 x_3 \bar{x}_4, \bar{x}_2 x_4, \\ x_1 \bar{x}_3 \bar{x}_4, \bar{x}_3 x_4, \dots, x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_4, x_1 \bar{x}_4 \end{array} \right\}$$

5/9/2023

13

タイソン法（コンセンサス法） ～共有項を求めながら主項を求める方法～

3. $k = 1 \dots m$ の各ステップで以下の操作を行う.
- ① 全ての積項 $t_i, t_j \in \Pi$ について x_k に関する共有項 $\text{cons}(t_i, t_j)$ を求め, Π に加える.
 - ② Π に含まれる積項のうち, その部分積項が Π 内に存在するならばその積項を Π から除去する.

例) $\Pi = \left\{ \begin{array}{cc} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, & \bar{x}_2 x_4, \\ \bar{x}_3 x_4, & x_1 \bar{x}_4 \end{array} \right\}$

x_4 について: $\text{cons}(\bar{x}_2 x_4, x_1 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_2$

$$\text{cons}(\bar{x}_3 x_4, x_1 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_3$$

$$\Pi = \left\{ \begin{array}{ccc} x_1 \bar{x}_2 \bar{x}_3, & \bar{x}_2 x_4, & \bar{x}_3 x_4, \\ x_1 \bar{x}_4, & x_1 \bar{x}_2, & x_1 \bar{x}_3 \end{array} \right\} \text{主項}$$

5/9/2023

14

主項間の包含関係

$$\text{cons}(\bar{x}_2 x_4, x_1 \bar{x}_4) = x_1 \bar{x}_2$$

\uparrow \uparrow \uparrow
 主項 主項 主項

$x_1 \bar{x}_2$ は $\bar{x}_2 x_4 \vee x_1 \bar{x}_4$ に包含される.

※主項間の包含関係を cons で調べることができる.

5/9/2023

15

主項間の包含関係

■ $\varphi(x_1, x_2, x_3, x_4)$ の主項が $p_1 = \overline{x_2}x_4$, $p_2 = \overline{x_3}x_4$,
 $p_3 = x_1\overline{x_4}$, $p_4 = x_1\overline{x_2}$, $p_5 = x_1\overline{x_3}$ であるとき,

主項間の被覆表

	p_1	p_2	p_3	p_4	p_5
p_1	×				
p_2		×			
p_3			×		
p_4				×	
p_5					×
p_1p_3				×	
p_2p_3					×

$\text{cons}(p_1, p_3) = p_4$
 $\text{cons}(p_2, p_3) = p_5$

← 共有項が全て主項
 になるときのみ最
 小積和形が求まる

ペトリックの方程式

$$p_1p_2p_3(p_4 \vee p_1p_3)(p_5 \vee p_2p_3) = 1$$



$$p_1p_2p_3 = 1$$

φ の最小積和標準形は

$$\varphi = \overline{x_2}x_4 \vee \overline{x_3}x_4 \vee x_1\overline{x_4}$$

5/9/2023

16

出題予定の演習課題

■ タイソン法を使って最小積和標準形を求める。

5/9/2023